



平成 28 年 1 1 月 28 日

手術支援ロボット「ダヴィンチ」
—中国四国地方で初めて2台体制へ—

広島大学病院では12月中旬、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を現在の1台から2台へと増設いたします。「ダヴィンチ」が2台体制となるのは、中国・四国地方の病院では初めてのことです。

本院ではこれまで「ダヴィンチ」を用いたロボット支援手術は、泌尿器科の前立腺全摘除術および腎部分切除術で保険収載されており、前立腺全摘除術で461症例、腎部分切除術で40症例に施行されています。中国・四国地方ではトップレベルの手術件数です。

本院では今後、泌尿器科領域のみならず、消化器外科、婦人科、呼吸器外科の領域などへも、患者さんへの負担が少ないロボット支援手術を拡げていきたいと考えています。

「ダヴィンチ」が2台体制となることで、手術の待機時間が減少すること、万が一のロボット機器の不具合時に早急に対応が可能であること、泌尿器科以外の領域でもロボット支援手術が同時に施行できることなど、多くのメリットが期待されています。

今回新たに導入する機種は「ダヴィンチ Xi」です。このシステムでは、ロボットアーム構造が改良しました。この新たなロボットアーム構造により、操作性が飛躍的に高まり、腹部や胸部など手術部位への様々な角度からのアクセスが容易となりました。また、ロボットアームがスリム化したことにより、アームの干渉が低減し、より精密な手術が可能になりました。さらに高画質で高倍率な3D-HD技術により、医師が覗き込むモニターには立体的な手術部位の拡大画像が鮮明に映し出されます。容易に広範囲に術野を展開することが可能となりました。高い精度と操作性を有し、複雑な剥離・切開や再建術を要する手術に低侵襲性手技を施すことを可能としています。



(da Vinci Xi イメージ (インテュイティブサージカル社 HP より))

【本件に関するお問い合わせ】

広島大学大学院医歯薬保健学研究院
腎泌尿器科学 井上 省吾 講師、亭島 淳 准教授
TEL 082-257-5242 fax 082-257-5244